

国立教育政策研究所プロジェクト研究
「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」平成29年度調査概要

3歳児から小学校2年生までの育ちと学びを継続的に検討するため、今年度は3歳児を対象に調査します。また、一部の園（5～6園）では、幼児に面接調査を実施するとともに、「幼児教育におけるプロセスの質評価スケール（案）」を試行実施します。

（1）アンケート調査

（調査に参加する全ての幼稚園，保育所，認定こども園が対象。100園程度）

①園調査（園長・副園長等，担任保育者対象）：

園長・副園長等には，園の概要，新制度への移行，構造の質，満足感・負担感，リーダーシップ，研修等を尋ねます。

担任保育者には，担当するクラスのプロセスの質，満足感・負担感，研修等を尋ねます。

②子供調査（担任保育者・小学校教師，保護者対象）：

3歳児から小学校2年生までの育ちと学びについての調査です。「育ち・学びを支える力（社会情動的スキル）」，認知的スキル，家庭教育・家庭環境等を尋ねます。

平成29年度は，3歳児対象クラス全員が対象になります。

担任保育者には，担当するクラスの幼児全員についてのアンケートをお願いします。

（2）面接調査（一部の園のみ対象。5～6園を想定）

より詳細な「育ち・学びを支える力（社会情動的スキル）」と認知的スキルを捉えるため，社会情動的スキル（感情理解，実行機能）と認知的スキル（言葉・語彙，数量図形）に関する面接調査を，平成29年度に3歳児対象クラスに在籍する幼児全員を対象に，継続して行います。

（3）「幼児教育におけるプロセスの質評価スケール（案）」の試行実施

（一部の園のみ対象。（2）と同じ園を想定）

現在，当センターにおいて開発途上の「幼児教育におけるプロセスの質評価スケール（案）」を3～5歳児クラスで試行的に実施します。具体的には，園を一日訪問し，対象クラスの保育観察を午前中に3時間程度行い，午後に担当保育者等へのインタビューを行います。「幼児教育におけるプロセスの質評価スケール（案）」の信頼性・妥当性を検証するためにも必要な試行実施です。

平成29年度は，3歳児対象クラスのうち，一つのクラスを対象とします。